

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	大野市児童デイサービスセンターくれよん教室		
○保護者評価実施期間	R6年 11月 1日		R6年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	R7年 2月 1日		年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	園、小中学校、市の福祉課・教育委員会、保護者との情報共有が適切に行われているため、こどもの支援を協同して行うことができる。	保護者も子どもも安心し、前向きな気持ちになれるよう、成長が見られた部分、できなくても頑張ろうとしていた部分を伝えるなど、ポジティブな支援が行われるよう心がけている。	当事業所の利用が終了したこどもの様子について、園や学校参観・連絡等を通して把握し、集団活動や学習の不応等の未然防止を図る。
2	就学を控えた子どもをもつ保護者に向けて、就学相談に関する説明会を行ったり、保護者の不安に寄り添いながら、こどものアセスメント等を行って、就学に向けた支援方法について助言する機会を設けている。	次回の療育での声のかけ方、課題の種類やレベルなど、気を付けるべきことを記録に明記しておき、よりよい支援や療育になるよう心がけている。	当事業所の役割や取り組みについて、園や小学校等知ってもらう。

3	公認心理師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、特別支援教育士、教員経験者が従事しており、こどもに応じて専門的な発達支援を提供することができる。	多職種のスタッフが互いの専門性を全てのケースで相互に共有できるよう、日頃の話し合い、ケース検討を大切にしている。	
---	--	--	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1			
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	大野市児童デイサービスセンターくれよん教室
------	-----------------------

公表日

R7 年 3 月 31 日

利用児童数

36

R6 年 11 月 1 日

回収数 29

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	無回答	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	29	0	0	0	0	・部屋をいっぱい使って自由に自分なりに考えて遊んでいます。 ・広くスペースが取られていると思います。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	25	2	0	2	0	モニタリングや相談の際に子供を見て下さる方がいればありがたいなと思いました。(モニタリングで支援員さんが参加できなかった日がありました。)	人数の都合上対応できないことがあり、申し訳ありません。お子さんの対応が必要な時はスタッフができるだけ入り、モニタリングで十分お話が出来るよう配慮します。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	28	0	0	1	0	くだものマークで分かりやすいと思います。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	29	0	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	28	1	0	0	0	・今日すべき事が目視で分かりやすくなっているので、子供もここまでしたら終わり、分かるので集中して取り組む事ができていると思います。 ・専門性については分からないので、まだ分からない。	お子さんに療育スタッフの専門性を活かした支援を提供できるよう、今後も研修等を通してスタッフの資質向上に努めています。また多職種のスタッフがチームで支援を行っていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	29	0	0	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	28	1	0	0	0	専門的なことは分からないので、どちらともいえない。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	26	1	0	2	0		計画書をお渡しする際には丁寧な説明を心がけます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	28	1	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23	1	0	4	1	いろいろ違うことをしてくれる。	・療育プログラムの目的をその都度解説するようにします。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	17	2	1	8	1		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	27	1	0	0	1		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	26	1	0	0	2		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	3	4	7	3	ペアレントトレーニングがあれば受けたいと思います。	ペアレントトレーニングの情報提供を行います。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	24	2	0	0	3		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	4	1	1	2	ゆっくり相談できる時間はない。	相談のみをご希望の方に応じられるよう説明します。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	27						
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	5	5	10	2	・上の子が高校生なので、きょうだい向けのイベントは難しいです。 ・きょうだいがいないので分かりません。	今後のニーズに応じてプログラムを提供していきたいと思います。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	無回答	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	19	22	1	0	4	2		相談のご希望があれば応じていることができています。他機関と連携し、支援情報を提供できるように努めます。
	20	27	0	0	0	2		
	21	13	4	0	10	2		
	22	24	1	1	1	2		
非常時等の対応	23	11	2	2	12	2		利用者の方に参加して頂く機会はほぼありませんが、事業所として大野市で開催する避難訓練に参加し、非常時の対応に備えています。また、緊急事態に備えて対応マニュアルを整備しています。今後重要事項説明書を通して、利用開始時に実施状況の説明を丁寧に行います。
	24	7	3	0	17	2	避難については訓練を見たことがないので分かりません。	
	25	20	1	0	6	2		
	26	14	3	3	9	0		
満足度	27	29	0	0	0	0		
	28	27	2	0	0	0	・毎回、くれよん教室での療育をとっても楽しみにしています。 ・市役所に着くと、何も言わずエレベーターに向かい、エレベーターのボタンを押してくれよん教室まで来てます。 ・毎回行くのを楽しみにしています。 ・おもちゃの力もあると思います が楽しく通っています。	沢山の嬉しいご意見をありがとうございます。今後もお子さんが楽しく通って、保護者の方にも安心して通って頂けるくれよん教室を目指していきます。
	29	29	0	0	0	0		

(その他に、くれよん教室についてご意見がありましたら、自由にお書きください。)

- ・成長がたくさんみられました。ありがとうございました。
- ・以前、予約日以外の日に子供が遊びたがり、少しの時間広場を使わせて下さりありがたかったです。同じ館内で3歳健診があった時で、子供が泣いて暴れて悲しく疲れていたもので、快く受け入れて下さり涙がでました。居場所があつてよかった...と思いました。いつもありがとうございます。
- ・グループ療育の時に顔や足に傷をつくって帰ってくる事がありました説明がありませんでした。
(→療育中にお子さんが怪我をするようなことがあれば、すぐに保護者にご報告させて頂いていますグループ療育中に見落としがあったようで、ご心配をおかけして大変申し訳ありません。スタッフ間で周知し、今後このようなことがないよう充分気をつけます。お気づきのことがあればなんでも仰って下さい。)
- ・いつも楽しみに通っています。ありがとうございます。
- ・経過に合わせて支援が受けられている。
- ・いつもよくて下さりありがとうございます。
- ・くれよん教室に通う事をとても楽しみにしていて、少しずつ上手に発音できるようになってきていて、とてもありがたく思っています。もうしばらくかかりそうですが、よろしく願います。
- ・集団教室での日を増やしたり(参加したいので)、年長だけではなく年中の子も参加し集団(たくさん)での交流を持てるとうれしいです。
(→くれよん教室としても、グループ療育を充実していけるよう準備をしています。年長児のグループ療育と合わせて、年中児のペア療育も始めています。今後も、他児との活動の機会を作れるよう、工夫していきます。)
- ・子供の能力は同じ年の子より、どれくらい遅れていると問題になるのか、教えて頂けると助かります。
(→くれよん教室では発達検査・知能検査を通して、お子さんの発達状況をアセスメントし、報告書を作成してお子さんの成長や課題、得意・不得意、本人にあった支援などについて丁寧に報告を行い、保護者の質問にお答えします。)
- ・いつもありがとうございます。今後とも宜しくお願い致します。
- ・翌月の加が-をもう少しだけ早めに頂けたらとてもありがたいです。
(→翌月の予約をお伝えるのが遅くなり申し訳ありません。早めに来月の予定が必要な際は、LINEなども活用して頂きいつでもご連絡ください。)
- ・子どもの適正に合わせてプログラムを考えて頂き、とても感謝しております。子どもも楽しみにしているので、今後も通いたいと思っております。
- ・楽しんでいます。くれよん教室に通わせてもらっています。活動やおもちゃ、家でも真似しています。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	無回答	ご意見	ご意見を踏まえた対応
							<p>楽しんでくれる教室に変わってほしいです。活動のお手伝い、家でも実施してほしいです。</p> <p>・いつもありがとうございます。子どもが喜んで通える場所があり、とてもありがたいです。これからもよろしくお願いします。</p> <p>(沢山のご意見頂きまして、本当にありがとうございます。嬉しいご意見を励みにし、また、改善が必要なことについてはスタッフ間でしっかりと対応を行っていきます。今後もお子さんが楽しく通えて、保護者の方にも安心して通って頂けるくれよん教室を目指していきます。)</p>	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 大野市児童デイサービスセンターくれよん教室

公表日 年 月 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		市の指定管理を受けているので、定期的に外部評価を受け業務改善を行っている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		事業所内での行動観察、園巡回での集団場面観察、個に応じた知能検査、保護者からの聞き取り等、丁寧にアセスメントを行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>			行動観察については丁寧に記録を取ってアセスメントを行っているが、標準化されたツールを使用することはまだ少ないため、定期的に記録し、アセスメントを行っていくと良い。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		集団療育については丁寧な打ち合わせを行っているが、日々の個別療育については、担当者のみで活動プログラムを作成することが多いので、プログラムの共有、改善を図ると良い。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○				
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・モニタリング等を通してこどもの成長や発達課題、支援の方針を園と共有している。 ・市の保育カウンセラーとして園と連携し、インクルージョン推進に向けた支援を行っている。その際にはカンファレンスを通して支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・市の教育支援委員会から教育支援委員の任命を受け、利用児の移行支援をほぼ全てのケースにおいて実施している。 ・就学先の特別支援コーディネーターに対し、集団療育や個別療育での様子や支援方法について情報提供を行っている。就学後についても、支援が適切であるかを話し合う機会を設けている。		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		利用児全員が園に在籍しており、障がいのない子との活動の場を持つことができている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○				
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○				
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		療育後に相談に応じ、助言と支援を行っている。子の状態によっては不定期に相談に応じることもある。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	○	前年度は集団療育の際に保護者同士で交流する機会を多く持つことができたが、今年度については、主催側の人員確保が難しかった。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	○	過去には地域の福祉ふれあい祭りにおいてセンター内の見学・案内を行った。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		